

慶應義塾大学 2007年度 教員養成GP「理想の教師への航海日誌〈教職ログブック〉」
連続講座「社会・他者との対話」第2回

森元美代治氏(IDEAジャパン理事長・塾員)講演

ハンセン病を生きて ——尊厳回復の願いと私のたたかい

2007年7月24日(火) 18時10分～20時10分

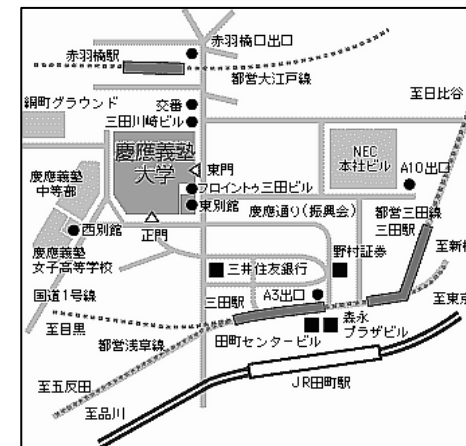
慶應義塾大学三田キャンパス 大学院棟311番教室

「私は14歳、中学3年生のとき、ハンセン病と診断され、国立のハンセン病専門の療養所に隔離された。その日から私は、深海の魚族たちの一員になった。日本社会は、私が陽の当たる道を歩むことを許さなかった。私は10年かかって病気を治し、無菌と診断されて、社会復帰した。28歳のとき、あこがれの慶応大学法学部法律学科を卒業し、金融機関で働く身となった。一見、順風満帆に思われた。が、それはいつも、うそと秘密のヴェールに包まれた、虚構の生活に過ぎなかった。私は、『かつて、ハンセン病患者だった。』と、だれにも話すことはできなかった。そして神は、厳しい試練を私に与えた。病魔がぶり返し、再発したのだ。生きがいのすべてを奪われて、東京の国立療養所・多磨全生園に再入園した。……日本社会に、多くを期待することはできない。だから私は、われわれ自身がまず変わる、そこで社会も変わるんだと信じて、価値ある人生にしていこうと思う。……私は95年5月、カミングアウトした結果、失ったものもあったが、得たもののほうがはるかに多い。故郷の人びとや、大学や職場の友人たちとの交流の復活、さらに、多くの人びととの新しい出会いを通して、私の生きる世界は、この1年間でまったく変わった。いまほど私は、人間の、信頼にもとづく友情の絆の強さ、すばらしさに、感動させられている時はない。」

(国連本部で開催された「尊厳の確立展」開会式夕食会での森元氏のスピーチより。1997年10月30日。出典下記2冊目)

参考文献 藤田真一編著『証言・日本人の過ち／ハンセン病を生きて—森元美代治・美恵子は語る』人間と歴史社、1996年
藤田真一編著『証言・自分が変わる社会を変える／ハンセン病克服の記録第二集』人間と歴史社、1999年

IDEA(The International Association for Integration, Dignity and Economic Advancement)は、ハンセン病患者・快復者のための「共生・尊厳・経済自立をめざす国際組織」です。1994年にブラジルで創立されて以来、世界各地にネットワークが広がっており、日本では2004年にIDEAジャパンが発足し、NPO法人として活動を展開しています。



JR山手線・京浜東北線「田町駅」下車、都営地下鉄浅草線・三田線「三田駅」下車、都営地下鉄大江戸線「赤羽橋駅」下車、いずれも徒歩7～8分

〈主催・問合せ〉慶應義塾大学教職課程センター
TEL. 03(5427)1618

車椅子等で御来場される場合は、予め御連絡いただければ係の者が構内を案内いたします。

参加無料・申込不要